



世田谷文学館友の会

おしらせ 第145号

令和元年8月1日
 世田谷文学館友の会
 〒157-0062
 世田谷区南烏山 1-10-10
 TEL 03-5374-9111
 FAX 03-5374-9120
 ホームページ
<http://setabuntomo.net/>

世田谷文学館・世田谷文学館友の会 共催講演

人間・谷崎潤一郎

— 小説『春琴抄』執筆時代の谷崎の動向と、その周辺 —

(講師 千葉 俊二氏)

谷崎潤一郎(1886～1965)の文学を、川端康成は「百花の王」牡丹花に喩えた。日本近代文学史上において、谷崎文学の存在は、牡丹の花のように、馥郁^{ふくいく}たる香りをもった、きわめて大きく豊かで、ひととき豪華なものである。

その創作活動は半世紀を越えて、つねに文壇の第一線で活躍し、それぞれの時期にその時代を代表する作品を発表しつづけた。明治末年の出発期には『刺青』『麒麟』『少年』『秘密』、大正期には『痴人の愛』、昭和初年には『^{まんじ}朧』『^{ふくいく}蓼喰ふ虫』『吉野葛』『盲目物語』『武州公秘話』『蘆刈』『春琴抄』、戦中から戦後にかけての『細雪』、晩年の『少将滋幹の母』『^{ふうてん}鍵』『^{ふうてん}瘋癲老人日記』などである。

こうした文学作品を生み出しつづけた谷崎潤一郎という作家はどのような人生を生きただろうか。いかなる境遇に育ち、どんな教育を受けたのか。そこからどのような影響をこうむり、どのような生涯をおくったのか。谷崎の生涯とその文学世界との相関関係について、『春琴抄』の時代を中心に話をしてみたい。

(講師メッセージ)

なお、講演にあわせて、谷崎潤一郎作品『春琴抄』の朗読(30分)を中 寛三氏(俳優座)に行っていただきます。

- 講 師 : 千葉 俊二氏 (早稲田大学名誉教授)
 朗読 中 寛三氏 (俳優座)
 (ヴァイオリン演奏 西本徳子氏、作曲 内藤正彦氏)
- 日 時 : 9月28日(土) 午後2時～4時 (受付1時30分より)
 講演2時～3時30分、朗読3時30分～4時
- 会 場 : 世田谷文学館 1階 文学サロン
- 参 加 費 : 会員1000円 会員以外1200円
- 申込締切日 : 9月10日(火) 必着
- 定 員 : 150名 (応募者多数の場合は抽選)

~~~~~

**俳句鑑賞会** 8月27日(火)、9月25日(水)、10月22日(火) 午前10時半～正午  
 文学館2階講義室 参加費 200円 秀句一句とご自作があれば一句お持ちください。

\* 次のおしらせ146号は、10月上旬発行の予定です。

(裏面に続く)

## 講座 石川啄木とロシア文学

(講師 大木 <sup>てるお</sup> 昭男氏)

26歳で夭逝した国民的詩人石川啄木(1886~1912)は、その短い生涯において、三つの文学的思想的進化の道を歩んだ。第一段階は、処女詩集『あこがれ』(1905)を刊行するまでの明星派のロマンチズム的傾向の時期、第二段階は、ロマンチズムに決別して、自然主義の影響を受けた時期で、評論『食ふべき詩』(1909)に「謂う心は、両足を地面(ちべた)に喰っ付けてみて歌う詩という事である」と記されているように、実生活と密接に結びついたリアリズムへの志向である。

しかし啄木は、現実を傍観しているだけの日本の自然主義を不満に思い始め、人生、現実を批評するもの、傍観ではなく批評していく、積極的な自然主義あるいは新理想主義でなければならないという考え方になり、さらにその先一步進めて、第三段階の社会主義的な時期に達する。

この間に啄木はロシア文学を愛読していた。ゴーリキイ、ツルゲーネフ、アンドレーエフ、トルストイ、ゴンチャロフ等々の小説を英訳や二葉亭四迷訳などで読みふけていた。啄木がロシア文学といかに関わったか、啄木にとってロシア文学とはいかなるものだったかを明らかにしてみたい。

(講師メッセージ)

講 師 : 大木 昭男氏 (桜美林大学名誉教授)  
日 時 : 10月11日(金) 午後2時30分~4時30分  
(受付は午後2時15分より)  
会 場 : 世田谷文学館 2階 講義室  
参 加 費 : 会員800円 会員以外1000円  
申込締切日 : 10月1日(火) 必着 (応募者多数の場合は抽選)

### 【世田谷文学館からのお知らせ】

企画展“原田治 展「かわいい」の発見” 9月23日(月・祝)まで開催中!

詳細・関連イベントは「世田谷文学館」Web > <https://www.setabun.or.jp/index.html>  
をご参照ください。

### <講座・散歩の参加申込み方法>

「往復はがき」に下記の事項を記入してお申し込みください。

①講座・散歩名 ②参加希望日 ③会員番号(会員以外の方は「非会員」と明記) ④住所・氏名・電話番号  
(散歩応募の場合は携帯番号) ⑤今後ご希望の講座・散歩など。

連名申込み可(③と④を必ずご記入ください。また返信用宛名にも連名者氏名を( )書きで追記ください。)

複数の講座・散歩をお申し込みの場合は、それぞれ別の往復はがきにてお申し込みください。

参加費は当日お支払いください。 ※参加を取り消される際には必ずご連絡ください。

宛先 〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10 世田谷文学館友の会 TEL 03-5374-9111  
FAX 03-5374-9120

ホームページ 「世田谷文学館友の会」 > <http://setabuntomo.net/>

友の会活動についてのお問い合わせは、毎週火曜日10時から17時の間にお願いいたします。